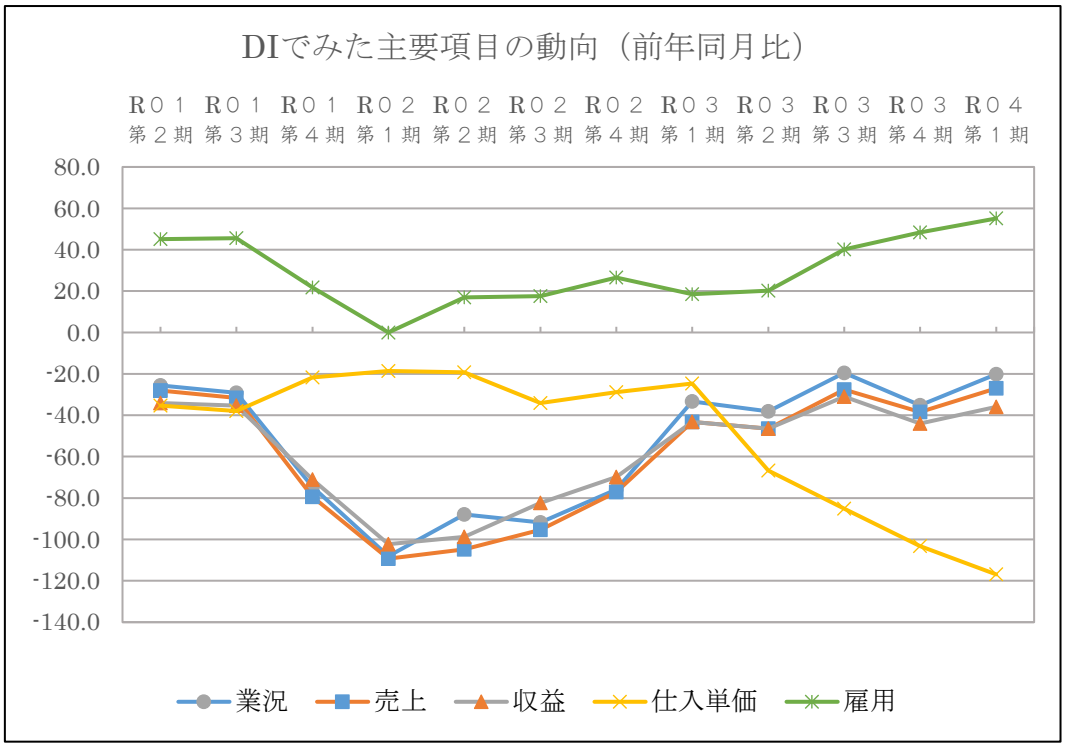
景気動向調査　令和４年度・第１期（令和４年４月～令和４年６月）

調査概要

調査対象:赤穂商工会議所管内　120社
回収:91社　　回収率:75．8%
調査対象期間:令和4年4月～令和4年6月（令和4年度・第1期）
DI値:「良い＋やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い＋悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計ＤＩ

区分	R3第4期 （R4年1月～3月）	R4第1期 （R4年4月～6月）	先行き見通し （R4年7月～9月）
業況	△35.2	△20.2	△24.7
売上	△38.5	△27.0	△22.5
収益	△44.0	△36.0	△41.6
仕入単価	△103.3	△116.9	△100.0
雇用	48.4	55.1	51.7

※雇用 DI については、数値が大きいほど人手不足感を表す

○今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査（R3 年 4 期）に比べ 15.0 ポイント上昇の△20.2 となった。売上 DI は 11.5 ポイント上昇の△27.0、収益 DI は 8.0 ポイント上昇の△36.0 となり、また仕入単価は 13.6 ポイント下降で△116.9、雇用 DI は 6.7 ポイント上昇の 55.1 となった。

○先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果（R4 年 1 期）に比べ 4.5 ポイント下降の△24.7 で、売上DIは 4.5 ポイント上昇の△22.5、収益DIは 5.6 ポイント下降の△41.6、仕入単価DIは 16.9 ポイント上昇の△100.0、雇用DI は 3.4 ポイント下降の＋51.7 となっている。

売上ＤＩ

区分	R3 第 1 期	R3 第 2 期	R3 第 3 期	R3 第 4 期	R4 第 1 期	先行き 見通し DI	先行き 期待感
全体	△43.2	△46.4	△27.6	△38.5	△27.0	△22.5	4.5
建設業	△46.7	△56.3	△42.9	△66.7	△73.3	△20.0	53.3
製造業	△9.1	4.0	△3.6	△17.9	△44.0	△16.0	28.0
卸売業	△88.9	△88.9	△37.5	△54.5	△66.7	△44.4	22.3
小売業	△69.6	△77.3	△78.3	△63.6	△3.8	△38.5	△34.7
サービス業	14.3	△71.4	37.5	25.0	66.7	22.2	△44.5
不動産・運輸業	△60.0	△20.0	16.7	△28.6	△20.0	△20.0	0.0

○産業別の売上DIは前回調査（令和3年4期）と比較すると、小売業が△3.8（＋59.8 ポイント）、サービス業が 66.7（＋41.7 ポイント）、不動産・運輸業が△20.0（＋8.6 ポイント）で改善、建設業が△73.3（△6.6 ポイント）、製造業が△44.0（△26.1 ポイント）、卸売業が△66.7（△12.2 ポイント）で悪化となった。

また、全体の先行き見通し DI は今回調査結果（R4 年 1 期）と比較し△22.5（＋4.5 ポイント）となっている。

経営上の問題点
（上位３項目）

区分	R3 第 1 期	R3 第 2 期	R3 第 3 期	R3 第 4 期	R4 第 1 期	前回調査比
売上の停滞・減少	53.0	57.6	31.0	34.1	28.1	△6.0
原材料高	10.6	19.7	19.5	24.2	28.1	3.9
人手不足	12.1	24.2	18.4	18.7	18.0	△0.7

○事業所からのコメント

建設業：今までにない仕入単価の急な値上がりがあり、見積もりに困る

小売業：仕入の値上がりが続き、仕入先が多くなった。在庫増加とお客様のバランスが難しい状況

サービス業：自社での PR 不足に悩まされる

<参考>

有効求人倍率

区分	R4.5月	R4.4月	R4.3月
一般（常用）	1.18	1.13	1.16
パート（常用）	1.34	1.39	1.44
一般+パート（全合計）	1.25	1.25	1.29